

# 59 ありふれた溪流の景観評価について

建設省越美山系砂防工事事務所 原 義文、松田均

建設省中部地方建設局道路管理課 近藤 努

(株) エイトコンサルタント ○河本 達郎、高橋 尚城

## 1. はじめに

近年、自然景観等に配慮した流路工が各地で整備されつつあるが、周囲の景観に応じた無理のない景観を作り出すためにはそれぞれの溪流の景観を良く把握する必要がある。そのためには、①景観がどのように形成されているか、②人がその景観をどのように受容しているか等について理解することが必要である。中でも溪流における一般的な区間や砂防事業の対象となるような溪流におけるふつうの景観を把握することは、今後の砂防事業を展開するうえで重要であると考えている。

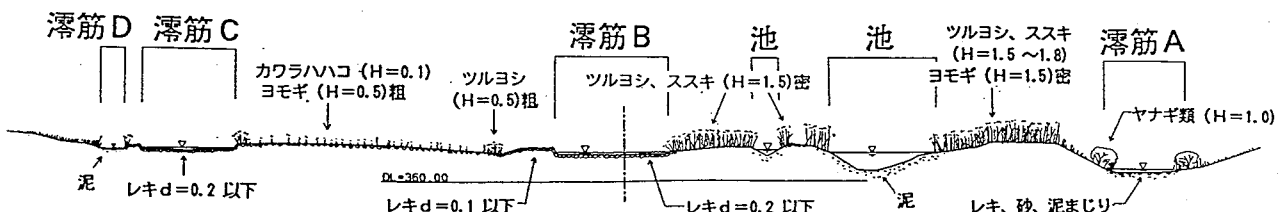
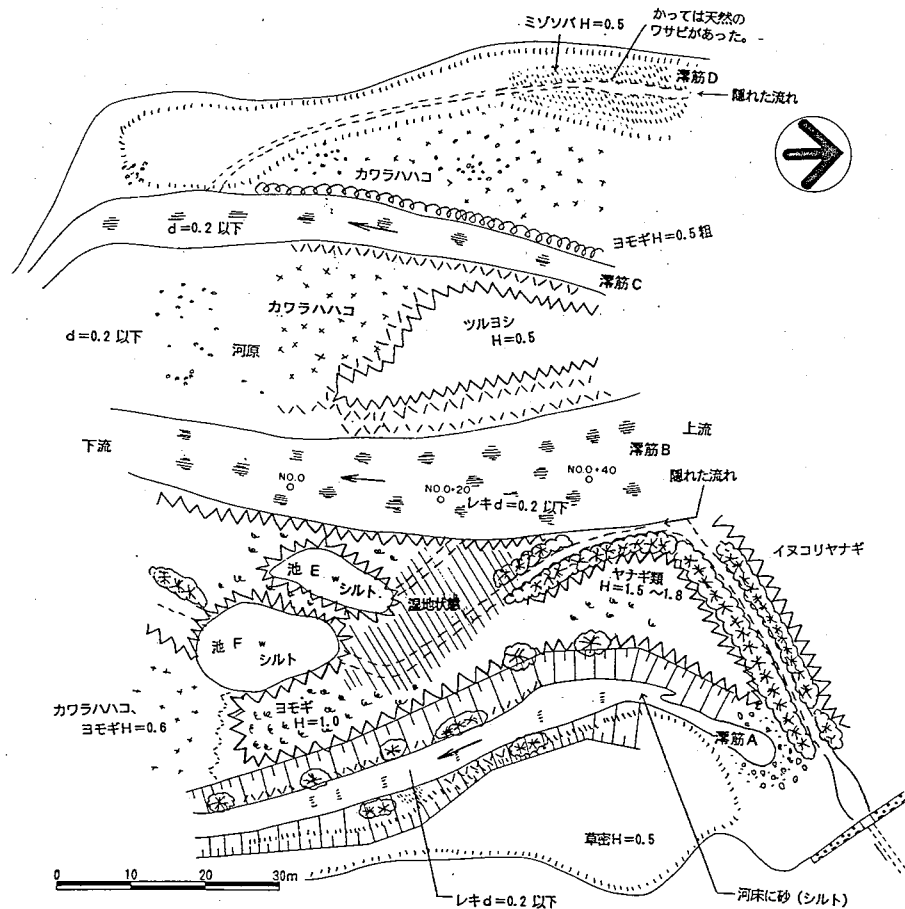
溪流の景観は植生、流水、地質等の要因が複雑に関わりながら形成されている。これらの因果関係を明らかにするためには、学際的かつ詳細な調査が不可欠である。そこで、具体的な現地調査を通して溪流景観を把握するための一手法の開発を試みた。内容としては、前年度に引き続き、実際の溪流のいくつかの地点において景観構成要素（水、石、草、木）とその背景となる地形、地質等について調査し、景観が形成された経緯を考察した。また、実際の溪流の景観を人がどのように感じるかについての調査を行った。

## 2. 溪流景観の形成経緯について

前年度調査地点について地質や植生さらに通年的な変化を調査した。その中から一例を紹介する。

### 【調査地点：山手】

上流域の広い河道内を滞筋が3つに分かれて流下している。それぞれの滞筋で川藻の付き方などに違いが見られる。特に滞筋Aは、伏流水の湧出による流れで、年間を通じて緑の水草が見られる。この他、草むらに隠された流れがあり、一部は湿地のようである。河道の中程に深さ2mほどの池があり、小魚の姿が見られる。



### 3. 溪流景観の印象に関する調査

人が溪流景観をどのように感じ取り評価しているかについて以下のように調査を行った。

- ・東谷川から5地点(表-1)を選び、経験や立場の違う7人(表-2)を選定して、現地へ案内した。
- ・現地で景観に対する感じ方や評価をアンケート用紙に記録し、これに基づいて面談を行った。

(面談ではそれぞれの人のイメージや感じ方についてより具体的に聞き取りを行った。)

表-1 調査地点

調査地点	現地状況
① 上川原	巨レキが点在し瀬と淵が連続する。夏場には子供の遊び場となっている。
② 入口洞	巨レキが点在する切り立った渓谷である。
③ 山原	広い河道内は裸地が多く、全体のが良く見渡せる。兩岸はブロック積み護岸で、河道内には重機の走った跡が残っている。
④ 山手	網状に分かれた複雑な流れをツルヨシやヤナギが隠している。河道内に深さ2mほどの池がある。
⑤ 上大須	兩岸はススキやツルヨシに被われている。滞筋は広い河道の中程を瀬となって流下している。

表-2 調査対象者

対象者	性別	年齢	職業・ほか
A	女	25	会社事務員・4年生大学文学部卒
B	男	27	建築設計(建築事務所勤務) ・趣味:アウトドア
C	〃	28	公務員・土木技術者
D※	〃	36	土木技術者・趣味:アウトドア (調査地点に詳しい。)
E	〃	41	営業マン・趣味:アウトドア
F	〃	54	土木技術者・趣味:溪流歩き
G	〃	58	釣り師・地元商店主(おとり鮎等を扱っている。)

(D※:調査員自身)

面談ではもっとも印象に残った点や印象の好悪を決定づけた原因となった要素について質問をした。

その結果、総合的な評価として巨レキが点在する①上川原、②入口洞についてはほとんどの人の評価が高く、③山原の評価は低かった。これに対し④山手、⑤上大須では“好き”とする人と“嫌い”と感じる人とに分かれた。

表-3 山原に対する評価

対象者	総合評価	総合評価の理由
A	特になし	草むらが苦手なわけではないが、見た目におもしろくない。
B	好き	景色の変化があり楽しめそう。虫や鳥などの小動物がいる様な感じがする。遠くから見ただけではわからなかったが、河原の中に入って歩き回っている内に魅力がわかった。5カ所の中で最も魅力がある。
C	特になし	色々なものがあり(職務的に)不思議に感じるが、(個人的には)特に魅力は感じない。期待していた風景(溪流の上流における風景)と違い、おもしろくない。
D※	好き	歩き回るほどに色々なものが見つかる、ジャングルの中を宝探ししているようで、おもしろい。多くの生命観を感じる。
E	嫌い	夏には草が生い茂り湿地の様になり、近づけない。こんな調査でもなければわざわざ行くこともない。
F	特になし	景観としてよりも水理的に興味を感じる。
G	好き	投網による漁ができる。ドンコが多くいる。山菜取りもできる。昔はワサビがとれた。(川は釣りだけでなく、それぞれの場所で、季節ごとに色々な楽しみがある。)

景観の評価は、人によって分かれるものがある。特に草むらや湿地は人により評価が分かれた。好きという評価をした人は、一見なんでもない草むらの風景の中に“何かおもしろいものが隠れている。”ことを想像している。つまり、実際に見える景色だけでなくその背後にある様々な環境を想像し、これらを総合的に景観の評価を行っている。自然度の高い溪流において景観整備を行う場合には単に見えるものだけでなく、その背後にある生態系等を充分考慮した整備を行うことが必要である。